

◆住まいづくりの無料相談会◆

毎月第4土曜日の13時から16時、鶴屋デパート本館5階インテリアカウンターにて無料相談会を開催しております。

みなさんも相談員として登録してみませんか！

《対応して下さった相談員の皆さん》

10月 田中弘子さん、山下恵子さん

11月 濱崎優子さん、下野明希子さん

12月 倉富華奈さん、盛高麻衣子さん

ありがとうございました！



◆無料相談会が20周年を迎えました◆



20年間ほぼ毎週第4土曜日に様々な相談に応じてきました。

出張相談会を開催したこともありました。

今、それらの相談内容をデータ化、分析作業の真っ只中です。

時代背景による相談内容の変化を感じるとともに、続けていくことの大切さを痛感しています。今後、機関紙への掲載や、冊子として形に残して行く計画です。

わたしたちは「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに全員が参加できる部会活動を目指しています。女性部会の最新情報はFacebookで随時更新中！

「熊本県建築士会女性部会」で検索♪



【告知】御船町営災害公営住宅 見学会のご案内(CPD認定予定)

熊本県買取り型災害公営住宅整備事業(上高野地区)が2月末に竣工します。

木造平屋13棟の小さな住宅の集まりですが、スロープを設けずに玄関に入れるよう、敷地計画を工夫するなど新たな試みが随所に見られます。

設計者の(株)ライフジャム一級建築士事務所 原田様も同席されます。ぜひご参加くださいませ。



イメージバースです

- ・用途 専用住宅(災害公営住宅)
(木造平屋13区画・2LDK10戸・3LDK3戸)
- ・設計 (株)ライフジャム一級建築士事務所
(株)トポスペース建築研究所
- ・施工 (株)米本工務店・(株)小笹建設JV

日時 令和2年2月23日(日)10:00～ その後ランチ会へ移動
 場所 御船町高木簡易郵便局となり:上益城郡御船町大字高木3456(現地集合)
 定員 20名程度 ※どなたでもお気軽にご参加ください。
 参加費用 会員は無料、非会員は500円(ランチ会は実費)※ランチ会場 現在選定中
 申込期限 令和2年2月19日(水)
 主催者 公益社団法人 熊本県建築士会 女性部会
 お問い合わせ 公益社団法人 熊本県建築士会 事務局 (TEL:096-383-3200)

申込先(FAX:096-383-1543E-mail:leb03540@nifty.com)

氏名(代表者): 他名 ※ランチ参加・不参加

連絡先:電話番号: E-mail:

※FAXの場合は切り取らずに送ってください。

平成 28 年 4 月 14 日に前震、16 日には本震と 2 度の大きな地震に見舞われた熊本地震から間もなく 4 年を迎えます。私たち女性建築士がどのように感じ行動したのか、記録の第 10 弾です。

熊本震災 発災直後～

～小さな村の取り組み

五木源住宅編～

人吉支部
持田 美沙子



震災当時は五木村の住民であり、役場の任期付き職員として最後の年である 5 年目。

発災からしばらくの間、週末は被災地で応急危険度判定、住宅相談に勤んでいたが、震度 4 強であった五木村での暮らしは平常通りだった。と言いつつも、地震の影響は大きく、古民家にお住いの方から住宅を見てほしいといった相談もあり、取り急ぎ確認に行った。見に行った古民家は、しっかりと建っていた。梁のねじれは以前からのねじれであり、また柱の曲がりも相談されたが、今回の地震が原因だとは言い難く、この地震で気が付いて心配されての連絡だった。村での暮らしは震災前後で変わりなかったが、役場としては、発災直後に五木で汲んだ水を届けたり、職員が交代で被害が大きかった自治体の手伝いに参加したりという日が年度末まで続いた。

地震の前の年に「森林で自立する村づくり」宣言を行った村としてできることは何だろうか。担当者として動けることがあるはず。という事で、被災直後、避難所への支援として、五木産の葉がらし天然乾燥材(被災前年度から県立大学と共同制作を進めていた)を使った組み立て式ベッドを 20 台作成し、西原村を中心に提供。ベッドの作成は、村の大工さん 3 人が担当し、5 月の連休明けにはお届けできた。

6 月、「森林で自立する村づくり」宣言に賛同した協定者(設計事務所、工務店、生産者、流通業者、等)の有志(以降、五木源住宅復興支援チーム)により熊本市で相談会を数回開催。そこに来場された相談者から甲佐町の現状を聞かされた。その後、甲佐町では、各地の震災現場にて古民家再生等で活躍されている長谷川氏を招き、7 月 5・6 日、古民家再生セミナー&現地

調査を開催した。これにより、数棟の古民家が解体されることなく再生された。それは、甲佐町主催の築 140 年の古民家改修を H30～R 元年の 2 ヶ年でワークショップにより行うというプロジェクトの実現へと繋がる。この古民家の改修でも、構造材に五木村の葉がらし天然乾燥材が使われている。

平成 28 年 7 月 16 日、五木村主催で「今後の木造建築のあり方を探る。」と題して、いち早く五木産材普及啓発シンポジウムを開催。連合会会長の三井所様、山辺構造設計事務所の山辺様、県立大学教授の北原様、古川設計室の古川様、松下生活研究所の松下様と震災後に木造離れとならないように、木の性質、構造について語り合い、そこには大勢の設計者、木造住宅の所有者が参加した。この頃、会議室等の会場は被災しており、会場選定も難しかったと記憶している。

その後、熊本県が公募した「自立再建住宅モデル住宅」で、五木源住宅復興支援チーム設計者の設計が採択され、テクノ団地に五木源住宅のモデルが建築された。また、地域生産者グループとして、五木源住宅復興支援チーム有志で 5 チームを結成し「くまもと型復興住宅プラン集」に 7 プラン登録された。西原村はそのプラン集から 1 プランを採用。五木村が五木源住宅復興支援チームに補助金を出して、五木産材で 15 坪の平屋建て住宅が西原村に建築された。

五木村と五木源住宅復興支援チームとが連携し、震災直後の 1 年で、様々な取り組みを行い、現在に至っている。

人口 1000 人弱の小さな村であるが、地震後の復興に大きく関わっている。(つづく)

女性部会では熊本地震の体験やその後の活動を書いて下さる方を募集しています。

(公社)熊本県建築士会事務局までご連絡ください。

TEL 096-383-3200

Mail LEBO03540@nifty.com